

(提言)「国立大学の教育研究改革と国の支援—学術振興の基盤形成の観点から—」

1 背景

国立大学は質の高い先端的な教育・研究を担い、高等教育の標準化と教育機会の均等化に貢献し、また地域の担い手となる人材を供給してきた。法人化はこうした使命をより果たすために行われたが、10 年以上を経て、国からの資金の削減により多くの国立大学が危機に直面している。このような現状を踏まえ、蓄積してきた知の資産を活用し、創造性に満ちた研究教育組織としての価値を一層高め、基礎研究、産学協創、地域と密着した研究、人材育成を進めていくため、未来志向で国立大学のあり方を提言する。

2 提言の内容

(1) 国立大学の自己改革の推進と長期的かつ継続的な投資の強化

国立大学は将来を予測しかつ社会の変化に柔軟に対応できる人材の養成や、科学技術の発展の基礎を形成する研究及び新たな知や文化や産業を生み出す役割を担う。その実現に向けた国立大学の改革を進めるため、長期的かつ継続的な投資が必要である。

(2) 情報通信技術 (ICT) を利用した国立大学の連携強化

国立大学法人は、ICT を利用した会計等の基盤システムのクラウド化、カリキュラムの共通化や共通講義システム化、研究、国際連携、産学連携により、高度な国立大学ネットワークを構築し、創造的な研究教育体制へと変革することが期待出来る。

(3) 国立大学の人材育成と学術研究の推進

次々と出現する社会的課題に対応するため、長期的な視野を持った高度人材の育成が急務であり、国と大学が一体となって若手研究者の環境整備を行い、大学の基盤経費減少に端を発する研究の停滞や若手人材育成の劣化を克服することが重要である。

(4) 国立大学の地方への貢献

国立大学は、社会の益々の流動化に対応して社会人の学び直しや地域のビッグデータ収集・分析の中核としての役割を加え、地域への一層の貢献が期待される。

(5) 国立大学における人文・社会科学振興の推進

国立大学の人文・社会科学は、高度な研究と教育の循環を通して、新たな価値、倫理、産業及び地域の活性化をリードする人材を生み出すことが期待される。国の投資の下、自己改革を行いつつ、現代だけでなく将来の日本の要請に応えることが求められている。